

第3回海上保税・貨物WG 議事要旨

1. 日時：令和元年10月9日（水） 14:00～17:00
2. 場所：ソリッドスクエア 会議室2（ソリッドスクエア1階）
3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事の概要

（1）議題

① 第2回WG提案内容についての結果報告

○ 事務局から、資料1に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶持ち帰って各社にヒアリングを行ったところ、GW配下のパッケージソフトを完全に廃止するのは困るといった意見があった。機能を絞るなどの対応を検討いただきたい。また、意見の取りまとめ期限が1週間となっているが、ヒアリングをする上では時間的に少々厳しいと感じる。（委員）

⇒ GW配下用のパッケージソフトは第6次NACCS更改時に廃止を打ち出したが、すぐには対応できないとの事から暫定的に残している背景があるので、第7次NACCSでは廃止をしたい。基本的には自社側で開発いただく機能であると考えているため、自社開発をお願いしたい。

また、ご意見の取りまとめ期限について、1週間とさせていただいているが、基本仕様のとりまとめまでにいただければ問題ない。（事務局）

② ACL情報登録業務の改善

○ 事務局から、資料2に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶カスタマイズの最小枚数が2枚から1枚にまると助かる。コンテナが2本以上ある場合は2枚目以降でもよいと思う。カスタマイズ機能は輸出者に出力内容を確認してもらう際に利用している。改行や禁則文字が改善されないのであれば輸出者へも周知してほしい。（委員）

⇒ 参考にさせていただく。電子的に輸出者へ直接出力するという運用は海貨の業務負荷軽減に繋がるのではと考えている。

また、キーボード上のEnterキーによる改行の実施は困難であるが、改行を意味する特定の文字を入力する事での対応は可能であると考えている。さらに、禁則文字については「_（アンダーバー）」、「~（チルダ）」は対応可能であると考えているが、温度の単位である「°（度）」については、2バイト文字であることから対応は困難である。（事務局）

▶承知した。輸出入者への通知先の追加は助かる。(委員)

▶プログラム変更要望でも挙げているが、業務送信前の入力画面印刷時はカスタマイズされず5枚出力されてしまう。送信前情報についてもカスタマイズされるようにしてもらいたい。(委員)

⇒ 意見として承った。(事務局)

⇒ 送信画面のカスタマイズは電文構成を大きく変更することとなるので、対応は難しいと考える。(事務局) ※WG後追記

▶アタッチシート電子化については、MSX業務での添付送信をイメージしている。船会社様次第ではあるが、民業業務間でのMSX業務に相当する機能があれば手間が減る。(委員)

⇒ 第6次NACCS仕様検討時も検討したが、PDFでの添付は完全なる電子化ではなく船会社でファイルを見ながら入力をする負担増加となる等の理由で見送った経緯がある。船会社様としてはいかがか。(事務局)

▶PDFの内容を船会社側で入力し直す必要があることがネックである。また、文字崩れにより文字の判別が困難なケースも想定されるため、船会社としては許容できない。

(委員)

⇒ 電子化を進めていく事を念頭に置いた上で意見を聞きながら詳細仕様で再度検討させていただきたい。(事務局)

③ 船会社船舶受委託関係の見直し

○ 事務局から、資料3に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶入出港業務の受委託の見直しは不要だと思う。第4次NACCSのころは受委託業務をしないと入出港業務が出来ない仕様であったが、第5次NACCS以降、在来船に関しては受委託業務の実施に関係なく入出港業務が可能となっている。過去に港単位で受委託登録したデータが残って居る場合で別の代理店が扱う際に受委託登録を行わなければ手続きできないため現在も登録依頼があると思われる。受委託登録を一度リセットし、コンテナ船に関して再度登録をし直すことでよいと思う。(委員)

⇒ 受委託登録の整理は実施するべきであり、受委託情報を一度全てきれいにしていきたいと考えている。NACCS不参加船会社側の設定をより迅速にできないか、またセンター側の業務負担の軽減も併せて考えている。(事務局)

▶不必要な受委託登録はしないようにと業界内においても周知したい。設定依頼があった時も必要が無ければ不要な旨を伝えて欲しい。(委員)

④ 輸出コンテナ総重量証明（VGM）対応

○ 事務局から、資料4に基づき説明の後、意見交換を行った。

▶ NACCSとサイバーポートの情報連携も実施しないという観点も含まれているのか。

（委員）

⇒ 情報連携基盤との連携は、第7次NACCSの更改コンセプトにも掲げている通りである。その中で、サイバーポートとの連携が実現されれば情報連携も考えられるが、サイバーポートの詳細が決まっていない現時点では明確な回答は出来かねる。今後、サイバーポートを含む連携基盤の動向も視野に入れつつ検討を行っていく。

（事務局）

⑤ システム対象業務の見直し

○ 事務局から、資料5に基づき説明の後、意見交換を行った。

⇒ 新規業務候補の2番、3番に関してご意見をいただきたい。現状、保税蔵置場にも許可承認情報が出力されているが、活用されていないのではないかと考えている。（事務局）

⇒ 一部地域の特殊運用と認識しているが、全国的にこのような運用になっているのか。（WG長）

▶ 輸出許可と搬出登録があれば確認できる上、余計な作業を生む可能性もあり不要だと思う。また、名古屋では国内他港向けの輸出の場合を除いて、このような運用はない。

（委員）

▶ 他のCFSに持ち込む際に、内貨なのか、許可済貨物なのか不明なので、判別するために許可書の添付をしているのではないかと思う。（委員）

▶ 輸出の場合だと、通関蔵置場とバンニング場所を登録することになっており、蔵置場においても許可情報を確認することはできる。登録されていないとVAN業務が出来ないので運用上はルールが守られていると思う。（委員）

▶ 現場で蔵置するエリアを判別するために利用している可能性がある（委員）

▶ 税関より許可書を残しておくよう指導もあった。（委員）

⇒ おそらく管理資料の取漏れによる保税台帳の不備に関する代替措置として許可書を保管するよう指示があったものと思う。台帳管理を適切に行っていれば許可書は必要ない。（WG長）

⇒ 紙媒体での保管はペーパーレス化に逆行すると考えられ、電子化推進の観点か

ら、2番、3番については検討から外させていただく。(事務局)

▶現在、ドライバーから検査指定票を受け取り、CYの検査指定票と対査しているが、予備申告の段階で検査指定票を持ち込まれる場合があり、都度、本申告が実施されているか否かを確認している。その為、予備申告の段階では指定票が出力されない様にして貰いたい。(委員)

⇒ご意見として承った。(事務局)

⑥ 次期システムへの移行方針

○ 事務局から、資料6に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

⑦ 定期保守の見直し

○ 事務局から、資料7に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

⑧ システムの信頼性について

○ 事務局から、資料8に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

⑨ EDI仕様(電文形式)について

○ 事務局から、資料9に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

⑩ EDIFACTのバージョンアップ対応

○ 事務局から、資料10に基づき説明の後、意見交換を行った。

・質問事項等なし

(2) 事務局からの連絡

次回の合同WGの日程等について事務局から説明を行った。

(3) 全体を通じた意見

・質問事項等なし

以上